



はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2026年1月20日(火)
第69号【隔月刊・FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

東北新幹線全線開通 15周年

記念セレモニー、エフエム公開生放送で祝う



東北新幹線は12月4日、全線開通・新青森開業15周年を迎え、北海道日本ハムファイターズの福島選手（八戸市出身）が一日駅長を務めて、記念セレモニーが新幹線改札コンコースで開かれました。また、エフエム青森の公開生放送が1階エントランスホールの特設会場で行われ、駅一帯は終日、和やかな雰囲気と笑顔に包まれました。

同日午前、開かれたセレモニーには、福島選手に加え、新青森駅の開業日に誕生日に近い青森市立新城中学校の3年生2人が、一日駅長として参加しました。同校生徒は毎年夏、新青森駅で観光客への手作りの「折り紙金魚ねぶた」配布を行っています。

JR ねぶた囃子会がにぎやかに演奏を繰り広げた後、一日駅長に任命された3人は、吉田和男・新青森駅長とともに15歳のバースデーケーキのろうそくを吹き消し

ました。続いて、「はやぶさ」で到着した乗客らにお菓子を配りました。

福島一日駅長は、「はやぶさ15号」で新青森駅に到着した乗客に対し、りんご植栽150周年にかけた県産りんご150個の配布にも参加した後、午後はエフエム青森の「東北新幹線新青森駅・七戸十和田駅開業15周年記念特別番組」に、吉田駅長とともに出演しました。



祝 新青森駅開業15周年記念セレモニー
2025年12月4日(木)

2人はパーソナリティのYouTuber・アーティスト d-iZe さん、エフエム青森アナウンサー・里村好美さんと、新幹線や旅をめぐる軽妙なトークを2時間にわたって繰り広げ、駆けつけた100人余りの聴衆の笑いを誘っていました。

番組の後半には、同じ12月4日に開業15

周年を迎えて記念イベントが開かれた七戸十和田駅から、田中志穂子駅長が駆けつけ、話の輪に加わって大きな拍手が送られました。

d-iZe さんは新青森駅開業時のキャンペーンに使われた、榎原敬之さんの歌「林檎の花」をピアノ演奏とともに披露し、聴き入る人たちは新青森駅の15年の歴史に思いを馳せていました。

今年3月26日には、北海道新幹線が開業10周年を迎えます。JR東日本はJR北海道、青森県庁、北海道庁と協力して3月31日まで、青森県・函館観光キャンペーン「ひと旅 ふた旅、めぐる旅。」を展開しています。



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥9

「キーワードは“挑戦”です！」 新谷さんが新しい隊長に

2010年12月の東北新幹線全線開通・新青森駅開業時に誕生した、青森県立青森西高等学校の「青西おもてなし隊」は今年、創設17年目を迎えます。新たな隊長に11月、新谷好花さん（2年）が正式就任しました。姉妹そろっての青西おもてなし隊員といい、「活動をより活発にしたい」と意気込んでいます。

「青西おもてなし隊に入りたくて、この高校を選びました。6歳上で、今は社会人になっている姉が在籍していて、『とても楽しいよ』と聞いていたので」

新谷さんは今の活動に至った理由について、はきはきと答えてくれました。

入学以来、最も印象に残っている体験は、新青森駅を起点とする北海道新幹線を通じてつながりが生まれた、北海道長万部高校との交流だといいます。同校が立地する長万部町は、新函館北斗駅－札幌駅間の工事が進む北海道新幹線の駅が開設される計画です。同校の生徒たちは2021年から23年にかけて毎年、新青森駅を視察に

訪れ、2023年には青森西高校で両校の交流会が初めて開かれました。一方、青西おもてなし隊の生徒たちは2024年、2025年と長万部高校を訪問し、生徒会と意見交換を重ねてきました。

「長万部高校の生徒たちは、オリジナルのお弁当『しゃん』を開発し、特急列車で販売するなど、私たちが体験していないことに挑戦していた。交流を通じて、新しいことが見えてきた」といいます。

同様に、新鮮な体験だったのが、青森港に多数、寄港するクルーズ船のおもてなしだったそうです。「私たちが手製の金魚ねぶたのマスコットをお土産に手渡すと、有料だと勘違いされてお互いが困惑したり。また、青森について解説するパネルを制作したことも、良い勉強になりました」

青西おもてなし隊はこのほか、学校に近い青森市・石江江渡下町会の地域ねぶた制作・運行をサポートしています。この活動を通じて、地域の皆さんと接点があったことが、とても楽しい、と振り返っています。

隊長になってみてのキーワードは「挑戦」です。2020年にコロナ禍が襲ってくる前、青西おもてなし隊は多彩な活動を展開していました。「クルーズ船の乗客を英語でガイドした、という経験を姉から聞いています。さまざまな取り組みを、あらためて進めていきたい」。コロナ禍前にはまだ必ずしも普及していなかった、YouTubeチャンネルやInstagramのアカウントの運営にも取り組んでいます。

このほか、ハロウィーンやクリスマスのイベントも開催し、手製のお菓子を振る舞って、隊員の親睦に努めているそうです。「1年生がもっともっと自発的に、活動に参加してくれる環境を整えたい」といいます。

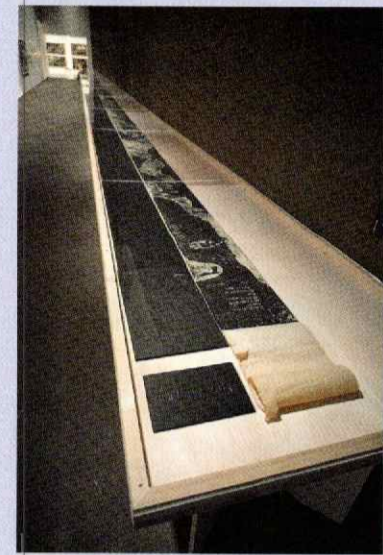
今後に向けて、特技の手芸を生かして、活動に使えるような「リング型の編み物」をつくれなにか…夢を膨らませています。



教育版画を通じて「平和」再考

青森県立美術館 「コスモスの咲くとき」

教育版画が盛んなことで知られてきた青森県の足跡とその背景を紹介する展示プロジェクト「コスモスの咲くときー地域に学び、平和を刻む教育版画の『いま、』」が4月12日（日）まで、青森県立美術館で開かれています。多くの児童・生徒たちと教師らが紡いだ等身大の暮らし



や郷土の産業史、大きな力に翻弄されてきた歴史が、力強い版木と彫刻刀のタッチとともに

よみがえっています。

展示は、五所川原市教育委員会が所蔵する1950～1990年代の県内の教育版画作品を軸に、日本教育版画協会を設立し青森県にも多大な影響を及ぼした大田耕士らの戦前・戦中の作品や、戦後の実践が立ち上がった経緯などを紹介する章、高度成長期の社会の変容を色濃く反映した作品が並ぶ章、激動する今日の多様な社会を映す作品と活動が印象的な章の3章から成ります。さらに、秋田県大館で敗戦間際に起きた、中国人の強制労働と一

斉蜂起、逃亡事件「花岡事件」を小学生が描いた「あの山を越えて」「花岡ものがたり」を展示したコーナーが開設されています。最も強いインパクトを残す作品の一つが、車力村（現つがる市）の成り立ちや開拓の様子を活写した30mもの版画絵巻「車力農業史」です。本



企画に際して、車力小学校の児童として制作に携わった人々が「刷り直し」を行い、話題を呼びました。この新バージョンは1月24日（土）から展示されます。

また、最近のクマ騒動を連想させる、森の動物たちと人間社会の関わりを描いた六戸町立昭陽小学校（2025年3月31日閉校）児童の作品「黒土が消えるとき」、やはり閉校した、むつ市奥内小学校二又分校の児童による「原子力船むつーむつの海を守る人々」といった作品が強い存在感を放ちます。

観覧料は一般700円、大学生400円、18歳以下および高校生は無料。これからの休館日は1月20日（火）～23日（金）、26日（月）、2月9日（月）、24日（火）、3月9日（月）、23日（月）です。



三内丸山遺跡 本年度発掘調査

土坑墓や特徴的な石が出土

世界遺産・特別史跡の三内丸山遺跡で、本年度の発掘調査によって特徴的な石を伴う遺構が見つかりました。縄文人の精神世界や当時の集落の構造に関する貴重な手がかりになると期待されています。

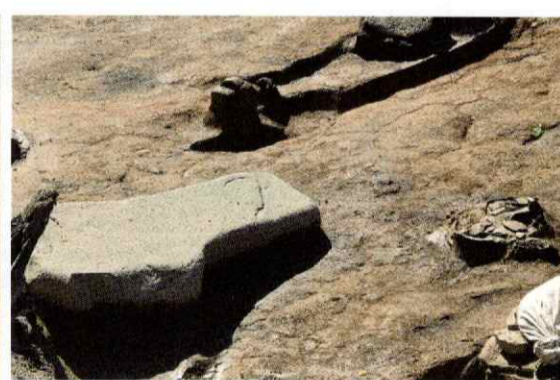
第50次となる本年度の発掘調査は、2025年5月から10月まで、遺跡の西側に位置する第2号道路跡の北端付近で行われました。現在の園路は、この道路跡に重なるように整備されており、これまでの発掘でその西側

に墓域が造られていることが分かっていました。

9月16日には現地説明会が開かれ、担当の三内丸山遺跡センター保存活用課職員が成果を解説しました。調査では、道路と直角の方向に約2mの細長い土坑墓が掘られていること、その中から副葬品とみられる石鏃（せきぞく＝石のやじり）が出土したこと、墓の底部から採取された炭化物を分析したところ約4,600年前、縄文時代中期後葉の墓らしいことなどが分かったとのことで

す。ほかにも、土器を棺とした埋設土器が3基、見つかりました。

注目されるのは、墓標のようないくつもの石です。子どもの背丈ほどありそうな、板状土偶を思わせる形の石、分厚い三角形の石、さらにはサンゴ礁のような穴が表面を覆っている平らな石など、特徴的な外観の石がいくつも道路側を向くように並んで出土しました。これらの石の中には遠くから運ばれたとみられるものもあるそうで



す。

このほか、墓域が途切れた部分から、建物跡らしい柱穴がまとめられて見つかり、墓域との関連性について、解明が待たれます。

一連の調査結果は3月、同遺跡の速報展で紹介される予定です。

見学時間 9:00～17:00(入場は閉館の30分前まで)
(6月1日～9月30日は18:00)

休館日 毎月第4月曜日(祝日の場合は翌日)、12月30日～1月1日

観覧料 一般:500円(400円) 大学生等:250円(200円)
高校生以下:無料

※()内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
(詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。)

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

三内丸山遺跡センター

縄文 徒歩約10分 芸術

三内丸山遺跡センター 青森県立美術館

二つの施設は歩いてでも、縄文時代の遺跡を見学する場合は、必ず事前に予約を。展示内容や観覧料は、各施設のホームページでご確認ください。

青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)

休館日 不定休(青森県立美術館HP参照)

観覧料 一般700円(560円) / 大学生400円(320円) / 18歳未満および高校生以下 無料

※()内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 → 三内丸山遺跡センター: 循環バス「ねぶたん号」(東口) 約15分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約30分
→ 青森県立美術館: 「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

FB ページ Instagram 青森大学社会連携センター